

平成30年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (公開)

法人名	特定非営利活動法人田万川地域サポート21	代表者	津守洋保	法人・事業所の特徴	山口県北部の自然災害の少ない高台にあり、住宅地や温泉、道の駅、食事処等も近く住環境に優れている。事業所は地域に密着した質の高い多機能のサービス提供に向けて、職員の人材育成を重点的に進めている。運営推進会議活用の一環として道の駅の一角に交流サロン開設に関して意見交換し、介護予防・日常生活支援サービスを開始した。
事業所名	小規模多機能ホームぬくもり	管理者	濱中幸恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	5人	3人	2人	2人	1人	1人	4人	人	19人

項目	30年度の改善計画	同左改善計画に対する取組み・結果	意見	31年度に向けての改善計画
A. 事業所自己評価の確認	30年度第二回運営推進会議で自己評価関係資料を提出し、事業所としての改善計画が確認された。	第四回運営推進会議(11月29日)で、各評価項目に関する改善計画及び取組み状況が資料(別紙-2)により説明されている。	3項(日常生活の支援)において、「声にならない声」を一層可視化できるよう検討されたい。	「スタッフ個別評価」をキャリアパス(人財育成計画)への応用を前年同様に試行する。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設内の共有スペース(玄関ホール、浴室)改修工事を行う。駐車場に砂利を敷詰める施工をする。	改修工事を平成30年8月に実施し、玄関の遮光や浴室環境が改善された。駐車場の整備により車両等が汚れにくくなった。	南面のガラス窓に遮光のロールカーテン設置により玄関の明るさが調節できるようになった。	前庭の東屋(あずまや)屋根の葺き替えを計画する。
C. 事業所と地域との関わりに関する改善計画	事業所スタッフの地域行事・イベントへの参加実態を調査し、地域との関わりのあるあり方を検討する。	ぬくもりスタッフへのアンケートで、地域との関わり実態を調査したので、今後地域との関り強化へ活かしたい。	須佐田万川地区の各戸配布チラシでぬくもり見学のPRをする。交流サロンについてホームページ上でPRしてはどうか。	開設された「交流サロン」を通じ、ぬくもりPRの工夫をするとともに介護、看護、認知症家族相談等により、地域との関わりを強化する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	運営推進会議へ利用者家族や地域住民の参加のあり方を検討する。「地域の心配な方」に関して運営推進会議での情報交換や具体的な取組みについて意見交換する。	利用者家族や地域住民の運営推進会議への参加のあり方については特に検討の進展は見られなかった。介護予防・日常生活支援の拠点「たま結び」を11月に道の駅の一角に開設した。	サービス利用者以外の、地域での心配な方へのサービスはボランティアであり、事業所本来の業務との混在で進めるには無理がある。関係機関等との協働がこれからも必要。	利用者家族や地域住民の運営推進会議への参加のあり方について引き続き検討を進める。ボランティアによる住民サービス「たまらぼ」の進展をはかる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域での心配な方の実態を委員から情報提供して頂き、NPO法人としての取組み方を会議で検討する。	地域での心配な方の情報が運営推進会議では十分に得られなかった。	地域での心配な方のリストがどこの部門で把握されているのか。新年度に入って東包括支援センターから「見守りチェックシート」を紹介する。	「30年度改善計画」を引き続き進める。関連情報を幅広く収集する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域住民の皆様にも、当事業所の防災へ協力して頂けるよう、地域行事への協力、奉仕活動への参加、事業所イベント等へのご招待など、日常的な交流に努める。	地元自治会行事や環境整備への奉仕活動、奉仕品等の提供をした。ぬくもりから近隣市道の草刈り等をシルバー人材センターへ依頼した。11月中旬に萩市防災担当、消防団参加による火災避難訓練を実施した。	事業所の防災体系について、第二回運営推進会議で詳しく説明されているので理解が進んだ。平成25年の山口県北部豪雨災害では利用者の被災家族も事業所が引き受けている。	「30年度改善計画」を踏襲する。